

平成 15 年度活動報告

- (1) 当プロジェクトの事業活動は 3 年目に入り、全体計画の折り返しに当たっていたが、研究対象である中国経済は当初 SARS 禍の中にあり、少なくとも前半に関してはこれまでの力強い経済発展に対するさまざまな影響が特に対外面から凝視され続けた。しかし、その後の中国経済はこれらの影響を比較的軽微に克服し、再び高い成長率を取り戻すことによって輸出入の一層の拡大、直接投資受入れの増加が顕著になっているようである。当年度の事業活動についても、こうした激しい動向に少なからず影響を受けた。当年度の予算総額は、4494千円であったが、現地視察調査が一部未消化になったほか、現地からの研究者招聘もまた困難となった。未消化予算の一部分は、研究活動充実のため転用し、パソコン等の購入に当てられた。結果としてこれは当プロジェクト事業に関するホームページの本格的立ち上げとこの充実にならなからず貢献した。研究書籍・資料の受け入れ等については、当初計画どおりの努力がなされた。以下、当年度の事業内容の概略は下記のとおりである。

(1) 現地視察の実施

メンバー全体の現地視察は未消化に終わったが、以下のことは実施された。

- 1) メンバー1名が 7~8 月にかけて、上海周辺を視察。上海社会科学院の協力を得て、近郊農村の視察、農産物加工工場などを視察した。
- 2) メンバー1名が3月中旬から1週間、韓国・台湾を訪問。国立台湾大学、在台湾の日本の調査期間、日系企業などを訪問し、主に中国本土に向かう直接投資の実態についてヒヤリング調査を行った。

(2) 学会報告、市民講座、ワークショップ開催など

- 1) メンバー1名が中国経済学会(第2回全国大会 東京経済大学)で研究報告
岑智偉「レントシーキング、公共支出と長期成長」(2003年6月29日)
- 2) メンバー1名が京都市民講座(キャンパスプラザ京都)で講演
久力文夫「中国農業近代化への試練」(2003年10月22日)
- 3) 国内の外部講師招聘によるワークショップの開催(本学第3研究棟3F会議室)
鈴木貴元(UFJ 総合研究所)「中国の最近のマーケット事情 中国経済の現状・先行きと流通・物流の現実を中心にして」(2003年12月3日)

(3) 当プロジェクトの事業活動に関するホームページの立ち上げとこの充実

下記アドレスでホームページを本格的に立ち上げ、事業内容の公開に努力している。

<http://www.kyoto-su.ac.jp/project/orc/econ-public/china/>

(4) 研究図書・資料などの購入

外国語文献・資料 (英語 29 冊、中国語 5 冊)

日本語文献・資料 105 冊

合計 139 冊

(5) その他

プロジェクト発足当初から継続しているメンバーの月 1 回の研究定例会議は、当年度も特別の事情がない限り実施された。また、メンバーによる専門領域からの研究成果はディスカッションペーパーとして年度末までに公表されるよう努力している。

(2) 当プロジェクトの来年度計画の大きな柱は当面次の諸点に置かれている。

(1) 海外からの若手研究員を数名招聘し、「公開講座」「ワークショップ」などを開催

上海社会科学院との連携で、現地の若手研究員を 3 名ほど招聘し、本学の学内施設を利用して学生・一般向け「公開講座」を 1~2 回実施、さらにより専門的な「ワークショップ」を 2 回実施することになっている。中国経済の市場化・グローバル化の影響が内陸各地に具体的にどのような浸透しつつあるかという認識を深めるのが目的である。この件は、招聘者の事情が許せば、夏までに実施したい。

(2) 今年度未消化に終わった現地視察の再開。現地事情を慎重に見極めながら、時期を選んでなるべく実施していきたい。

(3) メンバーによる京都市民講座での講演。これはすでに秋に予定されている。

(4) その他、文献収集、定例研究会の実施など継続的なものは、従来通り行う。